

節分会願文

謹み敬つて真言教主大日如来西部界会、殊ことに別わいては本尊聖者しよつじや
薬師瑠璃光如来、觀世音菩薩、諸尊諸菩薩、十二神将、総じて
は境内勸請諸佛諸神等内外権実一切の聖衆しようじゆうに白もうして言さく。

本日、辛丑歳の節分をかのとうしトとして妙供を宝前に献じて護摩の密法ぼく
を修して、法衆を天尊に供ず。

時はこれ立春にして、梅がほころび始めた。梅一輪、一輪ずつ
の温さ」で、厳しい冬の寒さにめげず梅自身を鍛きたえて、寒さをしの
いで清らかに咲き、そのうえ、絶妙の高いかおりを放はなっている。

目下、世界中が拡散している新型コロナウイルスという疫病の蔓
延で騒然としている。

日本政府も国難と受けとめ、国民に緊急事態宣言で不要不急の
外出や会食の自粛じしゆくを呼びかけている。自粛とは百分から進んで、
行いや態度を改め、「つつしむこと」と辞書にある。よく耐え忍ぶとい
う意味にも通じる。

それだけに、今年の節分会は、寒気を耐え忍んで咲く梅の強さ、
清らかさに一層ひかれるものがある。

さて、歴史上最悪の感染症のコロナ禍の恐怖もこのたび、安全で効
果的なワクチンがアメリカ、イギリスなどで開発され生産、日本で
も生産が進んでいるとも発表された。桜が爛漫ないしに咲く頃、内至青葉
茂る頃、医療従事者、高齢者順次に国民全体に接種されそうだと

いう。

まさに「地獄で仏に出会う」の例えどおり、非常に苦しんでいるおりに、予想外の助けに出会うという意味から希望を持たされた。仏教で説くところの苦しみの娑婆（世間）にあつて必ずや密教浄土、寂光土に出会える教えどおりである。

私自身も信仰する観音妙智力を思う。南無観世音、観音妙智力」のみ名を呼び、念称する。すると念彼観音力となつて私にあらわれてくださる。むろん、希望が叶えられるときもあれば、そうでないときもある。

観音さまの願い通りにして下さるのだから、叶えられぬときは、どうしてそのようなかと、謙虚に反省をする。必ず思いあたる節がある。思いあたらぬとすれば、煩惱にさえぎられているからだろう。世の中を甘くみないで、もっと自分の心を見つめよう。私の願いなどは低次元なもので、いかに身勝手なものであるかがわかる。自分はいまこういうことに苦しみ、悩んでいるが静かに反省すると、こうなってくるのが当然である。世の中を怨み彼の仕打ちに腹を立てていたが、自業自得で誰の罪でもない。まいた種は自分で刈りとらなければならぬことにおちつく。観音経は失意のときに、どう生きればよいのかを教える。それは「忍」の一字につきる。『災わざわいにあい苦悩にたえかねても、観音の智慧は必ず世間の苦を救う』と、お経に出ている。忍の徳はあらゆる戒行かいぎょうにまさる。

本日は真言密教の理法をもつて伝統の節分会ほんえんの法筵を開く。仰ぎ願わくば、本尊薬師如来並びに観世音菩薩、衆庶が微中

哀愍あいみんして此の法味を嘗なめ、威光を倍增して速やかに転禍為福の
慈悲ほどこを施し玉へ。

重ねて乞う

山内安全 密教紹隆 家業繁栄

除災招福 福寿如意によい 乃至法界

平等利益

令和三年二月三日

京都府向日市寺戸町

亀光庵 沙門 土口哲光